

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
相談援助の基盤と専門職 I Social Work Basics and Specialization I		1年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(社会福祉士国家試験受験資格取得必修)	特になし
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
社会福祉士受験資格指定科目				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
社会福祉士受験資格指定科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
中島 佳子	栄養棟3階	授業以外の時間		授業中に指示します
授業の概要				
この科目は社会福祉士の役割を学ぶためのものである。ソーシャルワーク実践を行う上で、不可欠なソーシャルワークの理念や価値、その形成と根拠となる理論について学ぶ。 また権利擁護、自己決定、ノーマライゼーション等、ソーシャルワーク実践を支える基盤の理解、習得を目指す。				
授業の目標				
①社会福祉士の役割と意義について明確にできるようにする。 ②ソーシャルワークが必要な現代社会の状況について特徴を述べるようにする。 ③ソーシャルワークの概念と構成要素について確認し、説明できるようにする。 ④ソーシャルワークの価値・知識・技術の重要性を説明できるようにする。 ⑤ソーシャルワークにおける権利擁護の意義と範囲について説明できるようにする。				
授業の方法				
テキストと視聴覚教材、関連資料を使用した講義形式とする。理解を深めるため、演習を取り入れることもある。				
学習の成果（学習成果）				
①社会における社会福祉士の役割、国家資格としての社会福祉士をモデル化することができる。 ②ソーシャルワークの価値・知識について示すことができる。 ③現代社会の地域生活の現状と課題について例証することができる。 ④人権尊重と社会正義などソーシャルワーク実践を支える基盤を認めることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス（シラバスの説明、受講の留意点等）			
第2回目	社会福祉士の役割と意義① 社会福祉士の身分法の定義と位置づけ			
第3回目	社会福祉士の役割と意義② 社会福祉士の専門性			
第4回目	現代社会と地域生活① 現代社会の特徴と地域生活			
第5回目	現代社会と地域生活② 人々の生活と自分らしい人々の生活			
第6回目	ソーシャルワークの概念 国際ソーシャルワーカー連盟の定義			

第7回目	ソーシャルワークの構成要素① ソーシャルワークの本質から考える	
第8回目	ソーシャルワークの構成要素② ソーシャルワークの展開を考える	
第9回目	相談援助の理念Ⅰ① ソーシャルワーカーと価値	
第10回目	相談援助の理念Ⅰ② ソーシャルワークの実践と価値	
第11回目	相談援助の理念Ⅰ③ ソーシャルワーク実践と権利擁護	
第12回目	相談援助の理念Ⅱ① クライエントの尊厳と自己決定	
第13回目	相談援助の理念Ⅱ② 自立支援とエンパワメント	
第14回目	相談援助の理念Ⅱ③ ノーマライゼーションと社会的包摂	
第15回目	まとめ 国家試験対策	
事前・事後学習	ITや図書館を活用して、授業で不明であった点は必ず次回授業までに調べておくこと。また、科目担当者に質問に行くこと。常に分析をする視点を持つこと。	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	30%	以下の視点で判断する。履修上の留意点を遵守し、遅刻なく準備を整え授業に臨み、必要なことはノートを取り、学んでいること。周りに迷惑をかけるような態度は、減点対象とする。
レポート		
調査報告書		
小テスト		
試験	70%	選択形式、穴埋め、記述式で出題し、知識及び内容の理解を確認する。記述式の評価は、授業で学んだ知識を用いて根拠をに基づき論じていること。
発表内容（態度含む）		
その他		
教科書と参考図書		
『相談援助の基盤と専門職』新・社会福祉士養成講座6 /中央法規		
履修上の留意点・ルール		
私語、携帯電話の使用を禁止する。授業に関係ないもの（携帯電話、食べ物、飲み物、化粧品、手帳）はかばんにしまうこと。 資料のデジタル化を禁止する。他の受講生に迷惑をかける行為があった場合には、退出を求めることがある。		